

A collage of circular images in various sizes, some overlapping, featuring architectural and cultural scenes. The colors of the circles are primarily blue and yellow. The text 'SENDAI CULTURAL' is superimposed in large, bold, black, sans-serif capital letters. The word 'SENDAI' is on the top line, and 'CULTURAL' is on the bottom line. The letters are partially obscured by the circular images.

SENDAI CULTURAL

FOUNDATION

公益財団法人 仙台市市民文化事業団

採用案内

RECRUITMENT GUIDE

はじめに

文化芸術と出会う楽しみやムーブメントを届けていく

ここ仙台では、

いにしえから東北の地に根付いてきた文化、

そしてそれらを土台に伊達政宗公が花開かせた“伊達”な文化、といった歴史を礎に、
多彩な文化活動が展開されています。

仙台で育まれる文化とそれを紡ぐ人々の営みは、

いつの時代もこのまちの大きな力となってきました。

これからの仙台の文化シーンを、自らも楽しみながら支え、

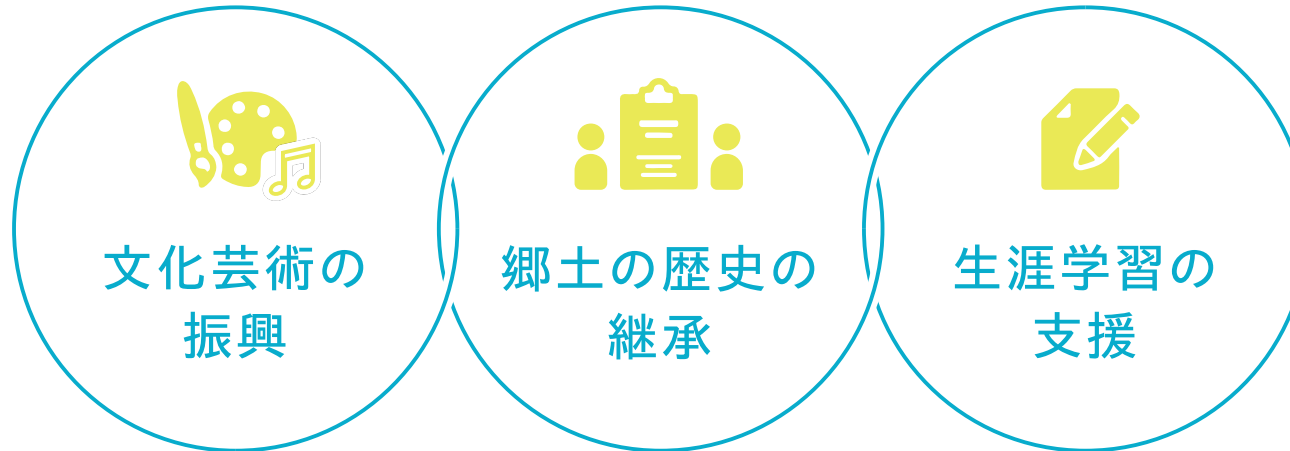
このまちに暮らす人々に文化芸術と出会う楽しみやムーブメントを届けていく。

私たちは、そんな想いに共感し、ともに進んでいく仲間との出会いを心待ちにしています。



画像提供: (公財) 仙台観光国際協会

公益財団法人仙台市市民文化事業団は



この3つの柱をもって、

魅力ある市民の文化創造 と 豊かな市民生活の実現に寄与すること をミッションとしています。

そして、ミッションの達成に向けて、主に以下の3つの側面から多岐にわたる取り組みを行っています。

1

公益財団法人として

市民の文化創造と豊かな生活に
寄与するための活動を実施

2

仙台市の外郭団体として

市の文化芸術施策を
連携して推進

3

指定管理者として

市有施設の
適切な管理運営

Cultural Scene



文化芸術を地域に生かす創造支援事業



総務課

リラックス・パフォーマンス



舞台芸術
振興課

仙台クラシックフェスティバル



音楽振興課

「伊達武将隊とめぐる舞台裏(バックステージ)ツアー」



日立システムズ
ホール仙台
(青年文化
センター)

「高校生と創る演劇 PLAY KENJI」



せんだい
演劇工房
10-BOX

仙台国際音楽コンクール



音楽振興課

室内楽コンサートシリーズ「イズミノオト」



仙台銀行ホール
イズミティ21
(泉文化創造
センター)

資料の収集と整理作業



歴史民俗
資料館

「詩人・石川善助をたずねて～北方への道のり」展示室風景



仙台文学館

富沢ゼミ



富沢遺跡
保存館
(地底の森
ミュージアム)

「せんだい・アート・ノード・プロジェクト」川俣正／仙台インプログレス



せんだい
メディアテーク

ガイダンス施設見学



縄文の森広場

企画展「ザンザコザン荒浜磯獅子踊」関連ワークショップ



せんだい
3.11メモリアル
交流館

運営施設



日立システムズホール仙台
(仙台市青年文化センター)



仙台銀行ホール イズミティ21
(仙台市泉文化創造センター)



せんだい演劇工房10-BOX



能-BOX
(せんだい演劇工房10-BOX別館)



仙台文学館



仙台市歴史民俗資料館



仙台市富沢遺跡保存館
(地底の森ミュージアム)



仙台市縄文の森広場



せんだいメディアテーク



せんだい3.11メモリアル交流館

Work Style



市民文化事業団には様々な職場・業務があります。

専門分野で学んだ知識や経験を活かして働く職員も、未経験でも各職場での業務を通して能力を高め、活躍している職員もいます。

事業企画

各施設において、それぞれの専門性を活かした主催事業・公演の企画を担当します。

また、市と連携して取り組む事業の事務局機能を担い、大型の公演事業や各種ワークショッププログラムなど、多岐にわたる文化事業を最前線で支えます。

施設管理

施設利用の予約受付等のお客様対応のほか、施設を安全・安心に利用していただくために、点検・修繕などの維持管理を行います。

フリースペースの活用や施設の近隣地域との連携により、人が集う場としての魅力づくりにも取り組みます。

主な業務

学芸事務

学芸員資格を活かし、資料の収集・保管や調査研究を行うとともに、調査研究で得られた成果を展覧会のほか様々なプログラムで発信します。

専門的な学芸事務のほか、ジョブ・ローテーションの中で一般事務にも携わることがあります。

総務

人事や経理、給与、福利厚生など、財団運営に関わる事務全般を担います。

また、ウェブサイトおよび定期刊行物による広報業務や、市民の文化芸術活動への後援・助成等による支援業務も担います。

休暇制度

1年間に20日の年次有給休暇のほか、錬成休暇（夏期休暇）、結婚休暇、産前・産後休暇、配偶者出産補助休暇、育児休業・育児時間や育児参加のための休暇、看護休暇、介護休業・短期介護休暇、子の養育や介護等のための勤務時間の短縮などの制度があります。

様々な休暇制度を活用し、仕事と生活の両立を図りながら働くことが可能です。

福利厚生や研修制度

福利厚生の一環としてグリーン・パル（中小企業向け福利厚生事業）に加入しており、各種のサービスを受けられます。

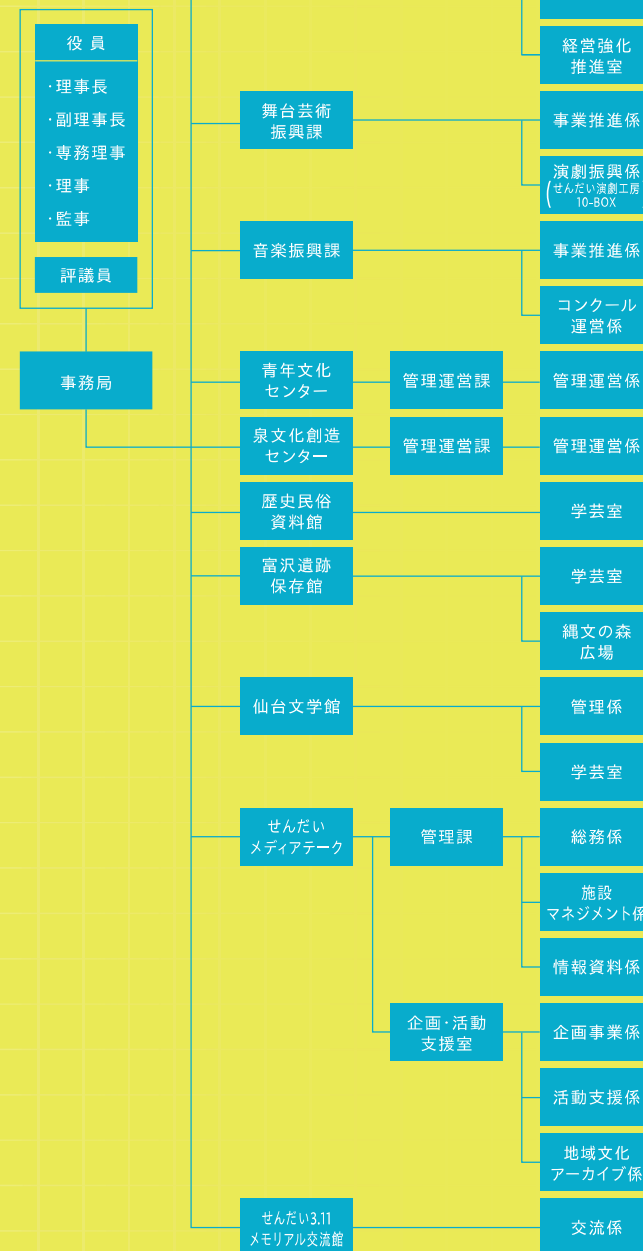
また、職員のスキルアップやよりよい職場づくりを目的として、様々な研修を行っています。個人もしくはグループでのより専門的な研修受講や、個人の能力向上のための資格取得を援助する制度も設けています。

TOPICS

現在、仙台市では、令和13（2031）年の開館を目指し、2,000席規模の音楽ホールと中心部震災メモリアル拠点との複合施設の整備に向けた検討が進められています。

今まで仙台にはなかった規模の文化施設誕生により、市内の文化環境はこれから大きく変わっていくことが見込まれています。

組織図



Interview

舞台芸術振興課 事業推進係



佐直 友美

[入職年/2023年]

01



Q1 入職のきっかけ(経緯)について教えてください。

私は学生の頃、吹奏楽部と交響楽団部に所属しており、定期演奏会や商業施設での演奏会など多くの方の前で演奏を行ってきました。どの演奏会でも、足を運んでくださったお客様の笑顔や涙してくださる姿に、文化芸術が多くの人の心に豊かさを与えてくれるものであると感じました。私自身も、気持ちが晴れないときにコンサートや舞台を鑑賞し、元気をもらうことがあります。

このように、多くの方を笑顔にできる仕事がしたいと思ったことが入職のきっかけです。また、生まれ育った仙台で、市民の皆様に喜んでもらえる仕事ができると思い、財団を志望しました。

Q3 どんなときに仕事のやりがいを感じますか。

担当した公演に多くの方が来場し、終演後にお客様の笑顔を見られたときに特にやりがいを感じます。

初めて一から企画した、未就学児も鑑賞できる「音楽と朗読」の公演では、終演後に舞台袖からほぼ満席となった客席の大きな拍手と子どもたちの笑顔を見ることができ、グッとくるものがありました。また、アンケートにおいて、今までコンサートに足を運ぶことをためらっていたお客様からの感謝の言葉を頂戴した際に、企画して本当に良かったと感じました。

公演は、出演者・舞台スタッフ、同僚など多くの方の力を借りながら準備・開催をしているので、無事に公演を終えることができた時の喜びはひとしおです。

Q2 現在の業務内容について教えてください。

私が現在所属している舞台芸術振興課事業推進係は、1年を通して、コンサートや演劇といった公演事業やダンス等のワークショップ事業などを担当している部署です。

その中で、私は主に公演事業を担当しています。具体的には、コンサートや舞台の公演を企画し、関係各所との連絡調整をはじめ、チケット販売や広報戦略、リハーサルの立ち合いや当日の運営業務など公演終了まで多岐にわたる業務を担います。その他、財団が管理運営している施設を全館使用したイベントの企画や運営も担当しています。

Q4 これからの目標について教えてください。

まだ一度も公共ホールに足を運んだことのない方にも、気軽に来場いただけるような公演を企画していきたいと思っています。初めてでも満足していただける少し砕けた内容のコンサートや演劇公演、ミュージカルなど、『面白い』という感覚を多くの方に持ってもらえる企画を考え開催したいです。また、未就学児も鑑賞できるコンサートだけではなく、障害を持った方も鑑賞できる演劇公演など、誰もが文化芸術に触れられるような企画も多く開催出来ればと考えています。

そして、私自身も職員としてたくさんのことを経験し、成長していきたいです。



Interview



松本 岳

[入職年／2019年]

02



Q1 入職のきっかけ(経緯)について教えてください。

学生時代にラジオ番組を制作するサークルに所属し、ドラマの脚本を書いたり、ベーシストとしてバンド活動を行ったりする中で、表現の世界に関わる仕事をしたいと考えるようになり、レコード会社や番組制作会社などの採用試験を受ける日々でした。

そんな折、市政だよりの採用情報欄でこの財団のことを初めて知りました。広く文化芸術事業に携わり、市民の多くの方が利用する施設を運営し、生まれ育った仙台に貢献していく。自分が本当にやりたい仕事を発見した!と心が熱くなる思いでした。

入職後はコンテンポラリーダンスやクラシックコンサート等の事業企画や、施設の管理業務に携わっています。

Q2 現在の業務内容について教えてください。

青年文化センターの管理・運営を行う業務を担当しています。具体的には窓口での施設の予約・貸し出しの受付や付随する打ち合わせ、施設を安全・清潔に維持するための各種事業者の方々(警備、清掃、植栽管理etc.)との調整を行っています。そのほか、ホール舞台裏ツアーといった事業の企画運営、中学生の職場体験受入れ、消防訓練なども担当しています。

施設の運営は財団の職員だけではなく、舞台や設備管理など、各分野の専門家が密接に関わりあうことで成立しています。円滑な連携が取れるよう調整を行っていくことも施設管理の重要な仕事です。

Q3 どんなときに仕事のやりがいを感じますか。

お客様に喜んでいただけることが、なによりのやりがいです。

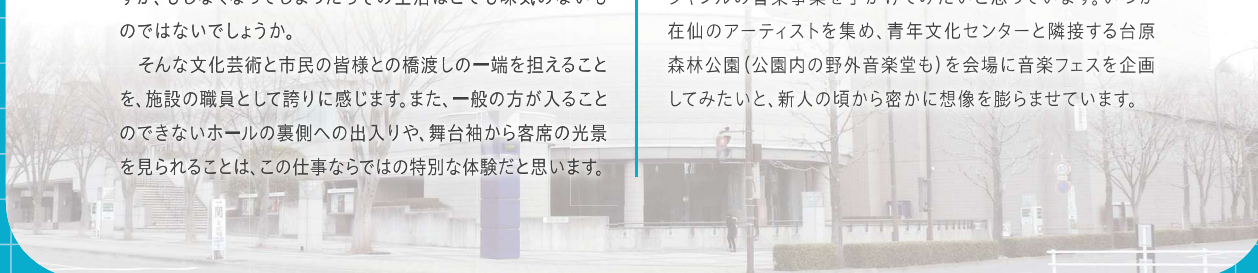
そして、公演・イベントの際、笑顔でホールから出て来られるお客様や、主催者の方が安堵の表情で帰られていく姿を見るたびに、文化芸術が人の心を動かすものであることを実感し、その重要性をあらためて感じます。私は文化芸術の存在を、心をより豊かにする調味料の様なものと考えています。日々の生活において優先度の高いものではなく、なくても生きていけますが、もしなくなってしまったらその生活はとても味気のないものではないでしょうか。

そんな文化芸術と市民の皆様との橋渡しの一端を担えることを、施設の職員として誇りに感じます。また、一般の方が入ることのできないホールの裏側への出入りや、舞台袖から客席の光景を見られることは、この仕事ならではの特別な体験だと思います。

Q4 これからの目標について教えてください。

お客様にも、また同僚からも、「この人になら」と信頼される職員でありたいと日々努力しています。どうしても仕事を進めていく中でわからないこと、対応が難しいことに直面することがあります。そのような場面でもお客様が不安や不満を感じることがないように、「自分がどう見られているか」表情や説明方法には気をつけています。

今後機会があれば、ジャズやワールドミュージック等、様々なジャンルの音楽事業を手がけてみたいと思っています。いつか在校生のアーティストを集め、青年文化センターと隣接する台原森林公園(公園内の野外音楽堂も)を会場に音楽フェスを企画してみたいと、新人の頃から密かに想像を膨らませています。



Interview

歴史民俗資料館学芸室



川上 理瑛

[入職年/2020年]

03



Q1 入職のきっかけ(経緯)について教えてください。

学生時代、日本近現代史を専攻し、明治時代の宮城県のことを研究していました。自分の専門を活かして学芸員として働きたいと思っていた時、教授から「仙台市市民文化事業団で学芸員の募集が出ているよ」と教えてもらいました。歴史民俗資料館には何度か行ったことがあり、小さいながら面白い展示を行っている館という印象を持っていましたが、施設を運営しているのが仙台市市民文化事業団という財団だと知ったのは正直その時が初めてだった気がします。地元であり研究フィールドでもある仙台で、歴史を扱う施設で働くことができたこんなに幸運なことはないと思い、採用試験を受けることにしました。

Q2 現在の業務内容について教えてください。

明治以降の仙台周辺地域を対象に、歴史と民俗についての調査研究を行っています。歴史民俗資料館は資料収集を積極的に行っており、市民の方から資料を寄贈いただくことも多いです。また、市民の方にお話を伺い、昔の仙台の様子や人々の暮らしについて教えていただくこともあります。日々調査を行い、その成果をもとに企画展を開催したり、研究成果を調査報告書にまとめたりしています。

その他には、歴史や民俗に関する様々なレファレンスに答えたり、学校見学で来館する小中高生などに体験プログラムを実施したりもします。資料=モノと向き合う時間もありますが、意外と人と話す仕事でもあると感じています。

Q3 どんなときに仕事のやりがいを感じますか。

歴史民俗資料館は小さな館で、学芸員も受付に出ることがあります。お客様から帰りがけに「いい展示でした」といった声をかけていただいた時は、とても嬉しく思います。

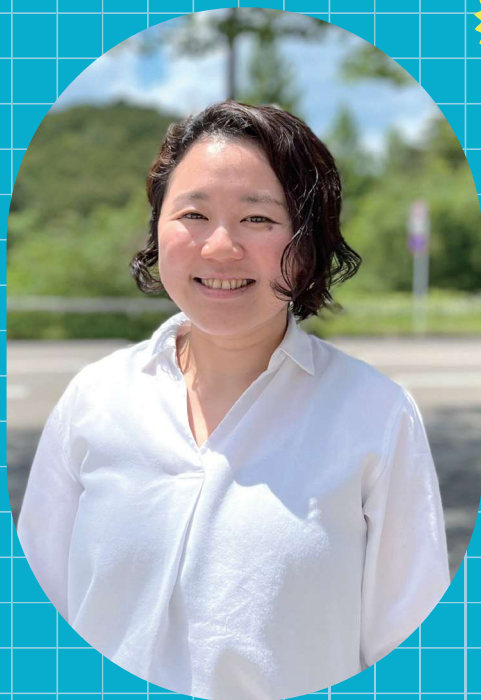
また、一番やりがいがあるのは資料について調べている時です。歴史民俗資料館には開館以来収集してきた10万点近い資料が収蔵されています。一つ一つの資料が仙台地方の歴史・文化を物語るものであり、扱う時は緊張感もありますが、知らなかったことを知る楽しさが同時にあります。寄贈していただいた方の気持ちを背負いながら、少しでも多くの資料を後世に残していくとともに、展示などを通してたくさんの方に資料について知ってもらうことが学芸員としての使命だと思っています。

Q4 財団で実際に働いてみて意外だったことについて教えてください。

入職する前は「公益財団法人だし、ちょっとお堅い雰囲気なのかな」と思っていたのですが、実際に働いてみると個性豊かな職員たちがにぎやかに働く愉快的職場、という印象に変わりました。財団はミュージアムだけでなくホールや演劇施設を運営し、事業企画に特化した部署もあるので、様々な分野の業務を行う部署が同じ財団にあるというのが面白いところだと思っています。財団内のミュージアム同士で連携したり、ホールのイベントに協力したりしたこともあります。それは「仙台の文化を発信する」という共通の目標が、施設を横断して掲げられているからこそです。今まで触れてこなかった分野に、わりと気軽に近づくことができるというのは財団の良いところだと思います。

Interview

総務課 企画調整係



荒井 菜摘

[入職年／2021年]

04



Q1 入職のきっかけ(経緯)について教えてください。

もともと演劇やミュージカルといった舞台芸術が好きで、前職では舞台の制作の仕事などをしていました。東京で働いていたのですが、自分が地方出身でもあり、地域の持ち味を深めたり、地域の方と関係をつくったりするような文化芸術事業に携わりたいと思うようになりました。

この財団を知ったのは、そう考えていた矢先、家庭の事情で仙台に引っ越すことになり転職先をリサーチしていた時です。仙台の歴史や特色を生かした多彩な文化施設の運営をしていること、事業内容も仙台に暮らす人たちと協働するものが多い点に魅力を感じて、採用試験を受けました。

Q2 現在の業務内容について教えてください。

文化芸術の助成事業と、共催事業を担当しています。

現在担当している助成事業は、「社会や地域の課題に向き合う文化芸術活動や、市民に優れた文化芸術の鑑賞機会を提供する事業を支援する」という趣旨のものです。募集要項の作成、申請・報告書類の処理、審査委員会の運営、採択事業内容を把握し、発信・サポートする伴走支援、申請者・採択者からの相談対応など、業務内容は多岐にわたります。

共催事業は、文化事業を実施するマスコミや他の文化団体と協力して公演などを実施することで、質の高い文化芸術を鑑賞する機会を市民に提供するものです。共催相手との連絡窓口として、事業実施までの各種調整を行います。

Q3 どんなときに仕事のやりがいを感じますか。

助成事業は、市内で活躍する文化芸術の担い手の皆さんを知り、その活動から学ぶ絶好の機会です。担い手の方々が、助成金を活用して普段より一歩進んだ内容に挑戦している様子を見ることは、文化事業に携わる者としてとても勉強になります。

助成制度の改善に向けて知恵を絞ることも、なかなか大変な作業である一方、やりがいの一つでもあります。

助成事業・共催事業ともに、「多様な／質の高い文化事業をより多く市民に提供すること」が一番の目標と考えています。事業の視察に行き、市民の皆さんが楽しんでいる様子を目の当たりにできた際には、無事目標達成の一助になれたのかな、と嬉しく思います。

Q4 ワーク・ライフ・バランスが取れる職場ですか。

2024年度に産休・育休を取得し、現在は育児時短制度を利用しながら勤務しています。同じ係の皆さんにフォローしていただき、子育て優先でお仕事をさせてもらっています。周りにも子育て中の職員がいるので、仕事の合間の雑談で育児の先輩たちから色々お話を聞けることもありがたいです。

現在の係では、自分の業務の都合に合わせて柔軟に休暇を取ることができます。出産前には、舞台・コンサートを観に行ったり、趣味の旅行やスポーツ観戦に行ったりするためにも休暇を活用していました。忙しい時期はもちろんありますが、余裕があるときには積極的に休みを取得しようという雰囲気がある職場だと思います。



SENDAI CULTURAL

FOUNDATION

RECRUITMENT GUIDE

Information

公益財団法人 仙台市市民文化事業団
総務課

〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5
TEL:022-276-6778

仙台市市民文化事業団
ホームページ
<https://ssbj.jp>



まちの文化情報誌「まちりよく」
＼せんだいと地域の文化を発信中 /
<https://mag.ssbj.jp>

